

東公民館

フラダンス教室

神崎 鎌倉和子

音楽に合わせて体を動かすものに、社交ダンスからジャズダンス、エアロビクスまで様々ありますが、今ひそかにブームになっているのが「フラダンス」です。

中でも静かで柔らかい動きをする「ハワイアンフラダンス」は、小学生から中高年にいたるまで、年齢に関係なく楽しく踊れるダンスです。

ゼスチャーダンスとも言われ、手話のように意味のある動きで歌に合わせて、ゆったりと踊ります。

また、フラダンスは、腰を動かすことでウエストを細くし、胃腸にも良く、心と身体をリラククスさせてくれます。

そんなフラダンスに出合うことができたのは、60歳を過ぎて何かいい運動はないかと考えていた時、たまたま目にした「まさきふれあい学園」のフラダンス教室開講の広報でした。



以前新聞で「中高年にも安全な体力づくり」にフラダンスを」という記事を読んだことを思い出し、早速申し込み受講することになりました。

教室は、毎月3回、月曜日の午後1時30分から1時間開かれており、40歳代から60歳代まで18名の受講生が和気あいあい楽しく踊っています。

フラダンスを始めて7か月になります、物覚えの悪い

私でも、今ではある程度人並みに踊れるようになりまし

た。これも、人それぞれに合った無理のない踊り方を誉め、上手に指導してくれる中四国ハワイアンフラダンス協会インストラクターで講師の高橋早子先生のお陰だと思っています。

フラダンスの効果でしょうか、受講生みんなが表情も豊かになり若返ったように生き生きと踊るを楽しんでいます。

身体を動かしてよい汗をかき、運動不足やストレスを解消するフラダンスで、若返りにトライしてみませんか。



ふるさとをたずねて

墨水小学校の由来

文化財保護審議会委員

郷田光生

岡田校区の塾や寺子屋の中には、小松庵（大間）・荒神庵（上高柳）があった。小松庵は、現在の教深寺（大間）に隣接し、明治初年ごろまであった。松山藩学明教館出身の「太田熊衛」が子弟を教育していた。明治5年に「学制」が公布され、翌6年に小松庵は上高柳の墨水学校の分校となった。

文化年間、大間の「大政金右衛門」は、自宅を家塾として子弟を教育していた。その実績が藩庁より称揚された。教深寺の境内には、「大政金右衛門」の墓碑があり、それに「寺子中建之 文政三年」と刻されている。松前地域の教育振興の源を確立した人として、現在も崇敬されている。

上高柳の荒神庵の庭には、老松が5本天高くそびえていたので「五松庵」とも呼ばれていた。初代師匠は「武智五友」で明治5年のことである。次に「村井俊明」が明治7年より継いだ。俊明は、子弟からも村民からもたいへん尊敬

▼現在の墨水小学校跡



墨水学校跡碑文には、「明治六年十一月九日に、他の地区に先がけて、この地に墨水学校を開設せり」とある。これからも、この学校が松前町内で最初の学校ではないかと思われる。

しかし、明治末期の耕地整理のとき、荒神庵は移転し、現在は、旧上高柳集会所のところに地藏庵と合祀し、荒神堂として新築され、双方を祀っている。

このように、寺子屋や私塾が現在の整備・充実した学校の基礎となったのである。